

第12回静岡県看護学会 質問に対する回答（未回答分）

演題：I-3 集団検診における健康相談の有用性についての検討

～健康診断結果の変化とアンケート調査結果から～

回答者：共立蒲原総合病院健康診断センター 綿野汐梨 様

【質問】

健康相談で特定保健指導に該当した受診者の、積極的支援と動機づけ支援の割合はどのくらいか。

【回答】

積極的支援 74 名 動機づけ支援 53 名 (2019 年度)

演題：II-3 ICU・HCU 看護師の身体拘束に対する認識と組織風土との関連

回答者：地方独立行政法人静岡県立病院機構静岡県立総合病院 松永愛子 様

【質問】

発表お疲れさまでした。先ほどもありましたがインシデントレポートを出すことで責められるとありましたが、そこは組織風土も関係するのではないのかと思われました。工夫して拘束を減らす取り組みなど行っていることはありますか？出来ないことを出来るようにするためにはどうしたらいいかということを考える職場風土にしていくことも大事ではないかと思います。

【回答】

インシデントを責められる文化があることは組織風土と関連していると私も考えます。

しかし、私の研究は量的研究でして、結果では有意差は認められなかったもので、関連があるとは言い難い結果となりました。

アンケートの自由記載でもそのような理由を書いてある対象者がいたことから全く関連がないわけではないと解釈しております。

この発表をした事以外に、もう少し細かく何点か加えて分析してしまして…。

先行研究では、看護師が身体拘束をしてしまう要因には患者要因、看護師のアセスメント能力の要因、治療やケア環境があげられていて、本研究においても、このような内容要因が示唆されています。

このことから、せん妄対策や、看護師の倫理観やアセスメント能力を高めていく教育、抑制解除カンファレンスの開催、医師の協力、看護チームの協力体制が必要だと思いました。

特に本研究の分析で、抑制解除への認識は低いことが明らかになったことから、当病棟では抑制解除カンファレンスを今年度から取り入れて不必要な身体拘束減少への取り組みを主にしています。

演題：IV-4 食支援の質向上を目指した看護補助者との協働

回答者：静岡徳洲会病院 西郷美智子 様

【質問】

興味深い発表ありがとうございました。研修参加率が高かったと思います。研修はどのような時間に計画されたのでしょうか？

【回答】

研修は16時30分から30分間行いました。曜日を変更しながら8研修を3回開催しました。看護師と看護補助者とも同一研修としました。

講師はフリーで活動しているため、時間にゆとりがありました。

【質問】

看護補助者の研修参加率が100%でしたが、参加に呼びかけのコツなどありますか？

【回答】

看護補助者は、部署ごとにリーダーを決め、全員参加できるように業務を調節し協力し合うようにしました。

開催時間は16時30分から30分間おこない、同じ研修を3回開催にして参加できるように工夫しました。